

単元案の概要

テーマ
日本と他国(中国)の大学生活を消費行動から比較する (注)夏の研修(G4)で考えた内容を一部修正。
目標
学習レベル 2 大目標：日中大学生の消費行動(家賃、ランチ、携帯電話利用料、アルバイト、学費)の比較を通して文化の背景を理解し交流を図る。 中目標：1. 自文化(日本)の学生の消費行動を振り返る。 2. 目標文化(中国)の学生の消費行動を理解する。 3. 各文化、各地の学生の消費行動を共有し、比較する。
コミュニケーション能力指標
●自分と身近な人びと ・名前(姓名)や属性(高校生であること、学年、年齢、誕生日など)を言ったり、尋ねたりできる。(1-a) ●学校生活 ・大学の学費や入学金などについて、尋ねたり説明したりできる。(新) ●日常生活 ・普段持ち歩いているものや身につけているものについて、会話できる(1-d) ・日常の生活行動(1日単位または1週間単位)について、その頻度や時間の長さなどを含めて、口頭で紹介し合うことができる。(2-a) ・1日、1週間単位の予定や報告(何曜日に何をするか/したかなど)を、簡単に、口頭でまたは書いて伝え合うことができる。(2-b) ・アルバイトの経験(頻度、期間、はじめたきっかけ、続けた理由、学んだこと、感じたことなど)について、口頭で説明できる。(3-b) ●食 ・朝食・昼食・夕食によく食べるものについて、言ったり尋ねたりできる。(1-l) ・自分の食生活(いつ、どこで、誰と、どんなものを食べるかなど)について、口頭で説明できる。(2-g) ●住まい ・各部屋(台所、トイレ、寝室、居間など)の名称を、書いたり、聞いて理解したりできる。(1-a) ・自分が住んでいる所(自宅か学校の寮か、何階か、一軒家かなど)について、言ったり、尋ねたりできる。(1-c) ●人とのつきあい ・自分や交流相手の住所や宛名を書いたり、書かれた住所や宛名を見て理解したりできる。(1-c) ・定型表現を使った、簡単な手紙やメールを、書いたり読んだりできる。(2-h)

学習シナリオ

北九州市立大学外国語学部中国学科1年2組(17名、中国語初級総合Ⅱ)では、交流校である中国の大連外国語学院日本語学院3年2組(17名)の学生とメールを通じて、大学生の生活について消費行動の比較調査を行うことになった。

まず、5グループに分かれ、調査項目(家賃、ランチ、携帯電話利用料、アルバイト、学費)別に、各項目に関連する事項について調査すべき内容を検討し、自ら(日本人学生)の調査を行い、かかる金額などを調べ、必要な写真などを撮影する。その結果を元に、調査をするのに必要となる中国語の表現や単語を考え、大連外国語学院の学生(中国人学生)にメールを送り、自己紹介をした後、返信が来たら、同様の項目について調査するための質問をし、必要に応じて、写真撮影を依頼しメールで送ってもらう(形成的評価、成績に参入)。

日本語と中国語(目標言語)で価格対照表を含めたスライドを作成し(形成的評価、成績に参入)、クラスで発表する。

完成したスライドを、実際に中国語を母語とする中国大連外国語学院の学生に送信し、コメントをもらう(もっと必要な点、修正事項など)。

修正したスライドを、それぞれのチームが発表し、各国比較なども行いながら、意見交換する。

他大学の活動を行った学生ともウェブ上でシェアし、交流を図る。

これらの活動により、自分たち日本人の学生生活について再認識すると共に、中国人の一般的な学生生活を知り、物価や消費行動の違いから金銭的な価値観や使い方の違いについて理解する。また、インターネットによるリサーチとスライドを基にした意見交換、メールによるアドバイスやコメントを受けながら、中国人学生、他大学の他言語クラスとの相互交流を図る。

総括的評価

「指示文」

- 私たちは日本と中国の大学生の消費行動(家賃、ランチ、携帯電話利用料、アルバイト、学費)の比較を通して文化の背景(及びそれにかかわる各国大学生の生活)についての理解をより一層深めるために、日中大学生の価格調査及びそれに付随する項目の調査を行います。Eメールを用いて、中国の大連外国語学院日本語専攻の学生に自己紹介と質問を日本語と中国語でしましょう。
- ここで得られる結果は、最終的には、日本人学生が中国に留学する際、または中国人学生が日本に留学に来る際の大きな参考となり得ますし、Eメールなどを通じて直接やりとりすることで、生の中国語に接することもできます。
- 家賃、ランチ、携帯電話、アルバイト、学費、5種類について調べるグループを決め、中国の大学生に日本の大学生活の何を知ってほしいか、自分たちが中国の大学生活のどんなことが知りたいかなどの点に着目して、具体的に何を調べるか話し合っ決めて下さい。
- 価格表の比較をまとめたものをスライドにし(音声付き)、クラス内で発表し(持ち時間10分)、中国人学生にも送ります(修正可能)。
- また、同様の調査を行った他言語クラスともウェブ上で相互閲覧できるようにします。

3×3+3分析

テーマ：日本と他国（中国）の大学生活を消費行動から比較する

	言語領域	文化領域	グローバル社会領域
わかる	・学生生活に必要な語彙を理解する。 ・基本的な衣食住、余暇・娯楽生活を送るのに必要なことばを理解する。 ・価格を調べ、日本と比較し、その違いに気づく。	・学生生活スタイル（事物や行動）について理解する。 ・学生生活を観察して、新たな発見をしたり自文化や自分が知っている文化と比較して、その違いや関係性に気づいたりする。 ・安心して留学生生活を過ごすために必要な物の値段を比較して共通点や相違点がわかる。	・安心して留学するためには価格の比較が必要であることが分かる。 ・学生生活スタイルの異文化間比較を行い、理解する。 ・物価を通して見た各社会、各国間の物価の違いや生活スタイルの違いを理解する。 ・グローバル社会に生きるために、21世紀型スキルを身につけることが必要であることを理解する。
できる	・自分の身近な生活をふりかえり、考えや情報を伝えることができる。 ・相手の学生生活について理解することができる。 ・日本と外国の価格を比較して、その共通性や相違性、関係性を探求して分析することができる。 ・他者のコメントを受け入れ、価格表を完成させることができる。 ・物価の違いをわかりやすく説明するためにスライド原稿を作ることができる。 ・クラスで発表することができる。 ・各チームが作成したスライドについて、学生同士が意見交換ができる。	・学生生活に必要な物の値段について人に尋ねたりして調べることができる。 ・調べた金額を提示することができる。 ・得られた情報をもとに、簡単な学生生活スタイルの提案をすることができる。 ・基本的な学生生活を比較して物価に関する知識や情報を活用しながら共通性や相違性を分析することができる。 ・物価の異同や背景にある考え方や価値などを探求し、自分の考えを表明することができる。	・インターネットサイトや、メールを用いて調べることができる。 ・グループ活動の中で自分の役割を自覚し、責任を持って、目的を達成するために、作業をすすめることができる。 ・学生生活スタイルの異文化間比較を行うことができる。 ・情報を収集・編集・発信する際に、情報・メディア・テクノロジーの特性をいかして、相互作用的に活用することができる。
つながる	・写真と説明の入ったスライドを作りコメントをもらい完成させる。 ・目標言語や母語を使って、積極的かつ主体的に他者と対話をして、相互作用しながら共に関係をつくりあげていくことができる。	・多様な文化的背景をもつ人々と主体的かつ積極的に関わり、相互に作用しながら、軋轢や摩擦（聞き手の疑問や、不満に対して事情説明をし、調整し、解決策を共に見出し、その上で相手と対峙する）を乗り越えてつき合うことができる。	・外国人留学生と意見交換をし、留学生生活の提案をし、より良い社会を構築することができる。 ・ITリテラシーを活用して、目標文化や地域の人々と、国や文化を乗り越えて連繫することができる。
三連携		・自分の関心にそって役割を分担する。 ・目標言語（中国語）を母語とする学生と価格表の修正を重ねながら自己の表現したいことを他者に理解してもらう方法を学ぶ。	
		・社会 ・経済	
		・留学を考えている学習者 ・既に留学している学習者（先輩）	

ルーブリック評価

テーマ：日本と他国(中国)の大学生生活を消費行動から比較する

要素 ／レベル		4 目標以上を達成	3 目標を達成	2 目標達成まで あと少し	1 目標達成まで 努力が必要
文化	相違性に関する尊重した発見・分析	適切な価格比較や消費行動の比較を通して、自分たちの学生生活と目標文化の相違性と文化の多様性を尊重し、金銭感覚等に対する多様な見方や考え方を示すことができる。	価格比較や消費行動の比較を通して、自分たちの学生生活を分析し、金銭感覚等の文化の多様性についても言及している。	価格比較や消費行動の比較を通して、自分たちの学生生活を分析し、考察しようとしているが、不足が見られる。	価格比較や消費行動の比較を通して自分たちの学生生活の分析や考察に著しい不足や誤りが見られる。
	受信者に対する共感性・配慮	受信者に対する十分な配慮が見られ、複眼的な視点から有益かつ、必要と考えられる情報を過不足なく適切な形で有効に伝えている。	受信者が必要と考えられる情報を提供するために、複眼的な視点から分析し過不足なく伝えている。	受信者の関心や問題意識に対する配慮が欠けている。	受信者が必要とする情報が不十分である。
グローバル	(チームワーク、協働能力)	グループの目標を達成するために常に努力し妥協が必要なときは妥協する。グループでの目標達成のために常にポジティブであり、他人への協力を惜しまないし、グループのために自分の能力、知識、時間などを常に提供し、目標を達成するために与えられた以上の仕事をする。	グループの目標達成のためにおおむね努力し、妥協することもある。他人と協働作業することにおおむねポジティブである。グループのために自分の能力、知識、時間などを提供することが多く、自分に与えられた仕事はおおむね終わる。	グループの目標達成のために時として妥協することもあり、目標達成のために他人を助けることもある。グループのために自分の能力、知識、時間などをときどき提供する。与えられた仕事をしないこともときどきある。	グループの目標達成のために妥協することがなく、グループのほかのメンバーといい関係を築くことができない。グループでする作業、グループメンバーに批判的なことがある。与えられた仕事をせず、グループへの貢献もほとんどない。
	構成・知識(わかりやすい内容)	完璧かつ正確に事実、データを分析したり、評価したりできる。	ほぼ正確に事実、データを分析したり、評価したりできる。	事実、データを分析したり評価したりする際に、重要な観点を見つけれないことがある。	事実、データを分析したり、評価したりする際に、重要な観点を見逃す。
表現	流暢さ、発音、わかりやすさ	よどみなく流暢に、正確に、はっきりと大きい声で聴き取りやすく説明できる。	コミュニケーションに差し支えない程度に表現できる。	聞き取りにくく、一貫性がない。途中で途切れてしまう。	中断や誤用が多い。声も小さく聞き取りにくい。
	語彙・文法・表現	豊富で適切な語彙・文法・表現を正しく使用している。	必要な語彙・文法・表現を正しく使用している。	限られた語彙の使用。ときどき語彙の間違いや語彙の不足が見られる。	語彙・文法・表現に誤り多い。
IT	情報リテラシー	複数の資料を収集し比較した上で正確に情報をまとめることができる。	的確に情報を収集しまとめることができる。	収集した情報に偏りや不足がある。	必要な情報を収集できていない。

	写真、図、イラストなどのビジュアルエイドの使用	ビジュアルエイドを非常に効果的に使い、文字情報や画像に過不足なく、発表を非常にわかりやすいものになっている。	発表に関するビジュアルエイドを適切に使っている。	ときどきビジュアルエイドを使うが、発表の内容の理解を助けるものではない。	発表の内容にあまり関係のないビジュアルエイドを使うか、全くビジュアルエイドを使わない。
--	--------------------------------	--	--------------------------	--------------------------------------	---

目標の要素分解

テーマ：日本と他国（中国）の大学生生活を消費行動から比較する

個々のタスク	小目標	中目標	大目標
グループ内でブレインストーミングする。	各テーマ(家賃、ランチ、携帯電話、アルバイト、学費)について、グループごとに具体的に何を調査するか相談する。 グループ内で分担し、学内で調査を開始する。必要なら写真を撮る(または依頼する)。 調査結果をまとめ、テーマごとの価格表、スライドを作成する。(形成的評価1)	自文化(日本)の学生の消費行動を振り返る。	日本と中国の大学生の消費行動(家賃、ランチ、携帯電話、アルバイト、学費)の比較を通して文化の背景を理解し交流を図る。
グループで考えた項目について実行可能性を考え、調査項目を決定。			
分担してクラスの学生を中心に調査を開始。			
必要な写真を収集する。			
PCなどの機器を使って調査結果、関連写真を効果的に示すためのレイアウトなどを考えながらスライドを作成する。			
各調査に必要な中国語(語彙・表現)を調べ、質問事項を考える(ネイティブチェックあり)。	各調査に必要な中国語(語彙・表現)を調べ、調査を開始(利用状況、金額など)。必要なら写真撮影を依頼する。	目標文化(中国)の学生の消費行動を理解する。	
大連外国語学院の学生に1人1人、自己紹介のEメールを送る。			
大連外国語学院の学生から返信が来たら、各テーマに関わる質問のEメールを送る。			
PCなどの機器を使って調査結果、関連写真を効果的に示すためのレイアウトなどを考えながらスライドを作成する。	調査結果をまとめ、テーマごとの価格表、スライドを作成する。(形成的評価2)		
日本と中国の大学生の各テーマにおける状況と価格表を掲載したスライドを完成させる。(中国語はネイティブチェックあり)	日本と中国の大学生の各テーマにおける状況と価格表を掲載したスライド(日中両言語表記)を完成させる。	各文化、各地の学生の消費行動を共有し、比較する。	
各スライドに中国語の音声をつける。			
クラス内でスライド(powerpoint)を用いて発表。制限時間10分。	クラス内で発表し、評価(総括的評価)。		
調査に協力してくれた大連外国語学院の学生にweb上で公開し、意見をもらう。	中国人学生に公開し、意見、感想をもらい、必要ならスライドを修正する。		
必要があればスライドに再度修正を加える。			
ウェブ上にスライドを掲載する。	ウェブ上で同様の調査を行った他校の他言語クラスに公開する。		